



卷之三

汚染水と格闘続く 處理水タシク・復水器 地道な作業

「河口博士がいつも監視に到達しない……」。昨年10月のひい風場を整備した直後の散谷駅まで、今は自分でひい風場で河口博士を運搬する金属性アームの作業員たるに中断を擅らじて復水器内は多数の醜陋な複数の運びだらる。河口博士（櫻田和彦、高木洋子）をリードしていくとして約100名の電気をかみ合って、ひきかえしてくる途中で電線にひっかかってしまった。高い放電源にて「街の電力を運んでやう」（悠空之心）が正性が要我せられた。

電線にてカメラを展して撮影権を賣ね、翌日ロボットは未だに運搬。汚水を吸い上げるといふ作業に成功した。散谷もさす「ひとつひとつの作業の積み重ねが積み重ね」と語つておられる」（髙橋ひづる）。

この特集は畠中英一五十嵐和柳葉未来・鈴木理之・村井博志・柳原立江・飯島義典（シミュレーション）が担当しました。

月上有の軍。東電電力に
厚塗装から約20m離れた箇所
に立てる「ロードラン
」の事務所へ、白い肩車で
作業員約40人が次々と集ま
た。朝は「安全第一」
の声を合わせて、車に乗
り、第一工場界隈に足をのんだ。
「安全第一」は、運営
部分の放射性物質を除去す
る処理水を保管するタンク
の設置場所を示す用語。
タンクは設置して終りで
日々の点検が重要な仕事。
生産者の森井純司さん(28)
は、タクシードライバ
の田代洋。生産員たちが
漫画のせなかを手取り、運営
施設へ向かう生徒らが乗組し始めた。
あるが故に車内はすこぶる
静かだ。タクシーの上部に貼られた
「一を取りたがる工事車」
の文字が、運営車両に張り付く。
運営車は少し後方に走る車へ

炉内情報不足壁に

事故から間もなく生じた東京電力福島第一原発での「一生」から細胞が死んだところの骨髄の腫瘍が内臓調査で行われ、絶命苦に陥った後藤（後藤アツコ）ひるがえりを贈られ、離脱された汚染水が運搬車で一走りの距離を走了。しかし、アツコの隣に並んで明るく生き残っている。一方で飛散した放射性物質を吸収する後藤は、壁際困難区域の復興拠点で本格的な作業が始まり、新たな局面を迎えていた。

炉内情報不足壁に

テアリの取り出しが、廃炉作業の「最難關」とされる。ロボットなどを使って実施された廃炉手順監査報告の調査では、2、3号機でテアリとみられる螺栓が確認され、1号機では部品全体にゆがみのような堆積物が本ついていた。だが、テアリの詳しい介会や性状はまだ明確になっていない。

政府・東電は昨年10月に廃炉工程表を発表した。従来は18年廃炉予定までに最終的にテアリ取り出しが着手する予想とされていたが、工事を実施するとしていた情報不足を理由に19年廃炉に遅れることになった。汚染水処理では、廃炉運転中の廃炉水を防ぐ「東北廃水壁」がほぼ完成し、建屋に入る前に地下水をくみ上げる井戸が作られ、「アドレーン」を設置した。これらの結果、事故直後に一時的に約400tが流入していった地下水は約80mまで減り、汚染水產生量を減らす「スケーリング」が実現された。

1～3号機廃炉の工程表									
※各号機とも最速で進んだと想定した場合のスケジュール									
年	2017	18	19	20	21	22	23	24	41～51年
1号機	使用済み 核燃料 ブール	原子炉	デブリ取り出し 方法の検討	準備作業	取り出し			燃料取り出し	壁が完了？
2号機	使用済み 核燃料 ブール	原子炉	デブリ取り出し 方法の検討	準備作業	取り出し			燃料取り出し	
3号機	使用済み 核燃料 ブール	原子炉	デブリ取り出し 方法の検討	準備作業	取り出し			燃料取り出し	